

「かいぼり」水草生き生き

井の頭公園池



水草が生い茂る井の頭池—東京都立井の頭公園で18日

東京都立井の頭公園（武蔵野市、三鷹市）内の井の頭池で、絶滅危惧種の水草「ツツイトモ」が大繁殖している。池の水を抜く「かいぼり」が繰り返され、底の泥の中で眠っていた種が目覚めたためとされる。水質が改善されて透明度も上がり、SNS（ソーシャル・ネットワークング・サービス）では「絵画のようだ」と話題だ。

【池田知広、写真も】

泥底の種お目覚め、水質も改善

都から委託されている環境調査会社ゼフィアが、くみ上げ井戸からの水量が増えたことも2014年以降に見られるようになり、今年5月の分布量は昨年同時期の6倍以上になった。伊藤さんはシュノーケルを用いた潜水後に「水草の範囲が圧倒的に広がった。透明度の高い池で泳げて幸せです」と語った。

伊藤さんと都によると、ツツイトモの大繁殖は、14、17年に水質改善や外来種対策を目的に3回行われた「かいぼり」の効果だとみられるという。池底の泥がかき回され、休眠状態の種子が刺激されて発芽。水質改善で池底まで日光が届くようになり、生育場所を広げたと推測する。水草を食べるソウギョやコイがいなくなったことや、くみ上げ井戸からの水量が増えたことも繁殖に寄与したという。

井の頭池はかつて豊富な種類の水草が茂っていたが、地盤沈下で1960年代に湧水が枯れると水質が悪化、水草も姿を消していた。都西部公園緑地事務所の内山香・管理課長代理は「都内でツツイトモがこれほど群生している場所は他にない。『昔の池に戻ってきた』と言ってくれるお年寄りもいて、感慨深い」と話す。

さまざまな生物も姿を見せるようになってきた。環境保全に取り組むNPO法人「生態工房」によると、池では複数のカイツブリがツツイトモを使って営巣。水草に産卵するトンボも増えたという。

ツイッターでも話題になり、印象派の画家、モネの「睡蓮」の池に似ているとの指摘が相次いでいる。

